

## 板生 研一（いたお けんいち）

特任准教授

専門分野／経営戦略、エンターテインメントビジネス、コンテンツビジネス、技術イノベーション、ベンチャービジネス

一橋大学法学部卒、英国ケンブリッジ大学経営大学院（MBA）卒、ソニー株式会社、外資系コンサルティング会社（KPMG FAS）、ITベンチャー経営



著書：『クラウド時代のヘルスケアモニタリングシステム構築と応用』（第22章ウェアラブルサービスへの応用）

## ビッグデータの時代を駆け抜けよう！

Googleが開発した囲碁ソフト「アルファ碁」が、世界最強棋士の一人に勝利しました。囲碁の世界は奥深く、人工知能（AI、Artificial Intelligence）が人間に勝つのはまだ先のことと思われていた矢先の衝撃的なニュース。ディープラーニング（深層学習）という技術を駆使することで、コンピュータが人間の知能を上回る新しい時代が来たのです。これをチャンスと捉える人もいれば、脅威と捉える人もいるでしょう。しかし、時代は確実にこの方向に進んで行きます。膨大なデータ、いわゆる「ビッグデータ」に支配される時代に私たちは突き進んでいるのです。情報セキュリティやプライバシー保護といった難しい問題もありますが、どうせ後には引き返せないのであれば、このビッグデータを味方にして、豊かな人生を送りたいものですよね。

たとえば、こんなライフスタイルを想像してみてください。

アルバイトの帰り道、今日はいっかりミスをして、店長にこっぴどく叱られてしまった。

「ともてムシャクシャするなあ。音楽でも聴いて、キモチを切り替えようかな。」

すると、過去に自分と同じ年代、同じアルバイトをした人が、同じように落ち込んだときに、励まされて気分が良かった楽曲が勝手にレコメンドされてくる世界。この曲が自分にレコメンドされた背景を知っただけで、「自分だけじゃないんだ」と勝手に励まされ、なんか元気になっていく……。

こんな世界が現実になれば、ずいぶん世の中が変わると思いませんか？こんな世界は夢の話だと思うかもしれませんが、ビッグデータの時代、ディープラーニングの時代には、あなたがち夢物語でもなくなってきているのです！

私たち人間は、自分の知っている世界の知識や経験に基づいて、取捨選択をしがちです。音楽を選ぶときも、どうしても、自分のこれまでの好みや、人から薦められた曲を中心に選びがち。しかし、ビッグデータの時代には、これまでなら出会うこともなかったような曲に出会える確率がグッと上がるのです。これは音楽に限りません。映画だって、テレビ番組だって、もしかすると、人生の伴侶までも、ビッグデータが最適な選択肢を示してくれるようになるかもしれないのです。

では、このような時代を生きていく私たちにとって、これから何が大事になるのでしょうか？ビッグデータが勝手に選んでくれるから、何も考えなくてよくなるのでしょうか？いえ、答えは逆です。データが示すことが本当に正しいか、あるいは、自分の知りたい答